

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500061		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター坂本(1階 ササユリ ユニット)		
所在地	岐阜県中津川市茄子川字坂本1499-33		
自己評価作成日	平成24年 2月20日	評価結果市町村受理日	平成24年 7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成24年 3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①この施設が入居者様の生活の場である事をふまえ、お客様ではなく生活者として自分でやれる事は自分でやり、手助けを必要とする事は一緒にやるという姿勢でお世話をさせて頂いている。入居者様には食器洗いや掃除、洗濯物たたみなどの家事仕事を自主的にやって頂いたり、畑の草取りや収穫なども楽しんでやって頂いている。②明るく笑い声が絶えない事をモットーとして、日々の会話から様々な行事に至るまでスタッフが工夫しながら取り組みを行うようにしている。ちょっとしたやりとりからも「笑い過ぎて腹が痛い」という声が聞かれたり、「ほほえみ合唱団」と称して皆さんと一緒に大きな声で歌を唄ったり、明るい雰囲気大切にしている。③「気づき・提案シート」を活用し、スタッフ自らが提案や参加して業務の改善や情報の公開、共有化に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の開設より約1年が経過しようとしている。管理者も着任して間もない状況ではあるが、自身の役割をよく理解しており、職員との関係も良好である。
事業所内の課題に対しての取り組みはこれからではあるが、利用者を第一に考えた対応が出来ており、利用者家族からの満足度も高いものが認められる。
利用者が力を発揮し楽しく過ごせる様に配慮しており、訪問調査当日の利用者の様子からうかがい知ることが出来た。周辺地域や自治体・関係施設などとの事業所との関わりについてはこれからの課題であり、前向きな取り組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①認知症をよく理解し、入居者様に安心感を与えられるようなサービスを提供する」を管理者の理念としている②管理者が、毎月の業務ミーティング時に理念に基づき方針や目標、注意点などを伝え、理念の共有と実践に活かすようにしている	管理者は事業所の理念をよく理解し、日常業務の中で実践出来るよう取り組んでいる。理念に基づいた目標を掲げ、職員に周知するための取り組みもある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①日常的な交流にまでは至っていないが、ボランティアや地元小学生の訪問などが実現しつつある。これらを機に地域とのつながりを今年1年の重点取組課題として考えていきたい②入居者様の外出先として地元の商店や喫茶店、食堂や公園などを利用させて頂いている	前年4月の開設であり、地域との交流はこれからの課題である。	自己評価にあるように、今後の課題として周辺施設や近隣住民との交流に前向きに取り組んで頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①開所してまだ日が浅く、地域貢献するにまでは至っていないが、地元の小学生の訪問時や見学者や家族様に対して、この施設での取り組み方や方針の説明などを実施している ②今後は地域とのつながりを深め、機会を見つけて貢献出来る事を実施していきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①2カ月に一度開催し、ご家族様の参加し易い日を選んで開催日を決めているが、参加が少ないのが現状である ②入居者様の代表にも参加して頂いている③ニチ通信を利用して実践報告を行っている。開催日に行事なども計画し参加して頂けるようにしている	概ね2ヶ月毎に開催し、利用者や家族の参加を得ているが地域代表などの参加はまだである。	地域との相互理解を深めるためにも、区長や民生委員などの参加が得られる様取り組んでいくことが重要である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	①管理者が自治体を訪問し、情報交換や指導を仰ぐように努めている ②運営推進委員会にも市から参加して頂いている	自治体との情報交換に努め、協力が得られる様取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①身体拘束に対する社内マニュアルを利用して定期的に勉強会を実施し、今後も継続予定②物理的な拘束だけでなく、言葉による拘束(スピーチロック)や薬による拘束(ドラッグロック・薬漬け)にも注意を払うようにしている	身体拘束については、管理者・職員ともに理解しており、日常の業務の中で実践している。定期的な勉強会の実施もあり、継続した取り組みになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①社内の虐待防止マニュアルを利用し定期的に勉強会を実施し、今後も継続予定②会社のスローガンである「しない、させない、見逃さない」を遵守し、虐待のサインを早期にキャッチ出来るように心がけている。特に言葉遣いに対して配慮をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①基本的な事項は理解されているが、詳細については今後定期的な勉強会に取り入れていく予定②当日のフロアリーダー制を導入し、毎日スタッフが集まり、リーダーを中心に入居者様の自立に向けた情報交換や介助方針を決めて実践するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①契約や解約時には、管理者が重要事項説明書や契約書の内容を十分に説明し理解を頂いている②特に、疑問や不信感などを持たれる事がないよう親切、丁寧をモットーとして説明を実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①現在は運営推進会議時や面会時にご家族様の意見を聞かせて頂いているが、今後はアンケートや(退所者含む)や意見箱の設置を検討予定 ②退所された家族様が他の入居希望者様に「あそこは親切で良かった」と評価された事を教えて頂いた	利用者や家族の意見・要望を日常から把握できるよう努めており、今後の更なる把握のための方策を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①この施設の運営にスタッフ自身が参加する事を目標としている②新たに「リーダー会議」「居室担当制」「当日のフロアリーダー制」を導入し、月毎の目標や行事など基本的な事を決めたり、個々の入居者様に対する取組に参加出来る仕組みとした③「気づき・提案シート」を使用してスタッフの意見を聞き、速やかにその提案に対する対策を実施するようにしている	職員の意見・提案などを、事業所の提供するサービスの質の向上のために反映していくことに努めている。現在は気づき提案シートを作成し、意見を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①毎月の職場訪問や会議への参加を心がけている。②勤怠を管理指導する中、時間外労働の把握をし法令遵守のみではなく、職員の健康面にも気をつけながら職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①新入社員は、支店に於いて新人研修が行われ、他職員についても、テクニカル研修が逐次行われている。②月1回勉強会を行い、社外の研修についても随時情報提供し、希望者には参加を呼び掛けシフトを配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①中津川市グループホーム会に参加し、定期的な会合や研修会にスタッフも参加している②外部講習会の情報を通達し、参加を呼び掛けているが参加率はまだ低い③今後は他業者とのネットワーク作りを力を入れていきたいと考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①可能な限り入居前に施設の見学をして頂き、納得して入居されるようにしている②入居初期の不安感や戸惑いを取除くべく、スタッフが常に寄り添い入居者様の話に耳を傾けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①入居前に可能な限りアセスメントを実施し、それをケアプランに反映させるようにしている②家族様との連絡を密にし、お互いに話易い関係を築きつつ要望や困りごとを聞き出せるようにしている③ご家族様の要望を理解した上で情報提供やアドバイスをを行い、安心や信頼感を持って頂けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①初期のアセスメントで得た情報を基に、ご家族様の家庭の事情や入居者様の状況を理解しサービスへ反映させるようにしている ②特にグループホームとしてやるべき事、出来る事は何かを判断しながら対応している③医療的な面は提携医と相談しながら対処している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①この施設における主役は入居者様であり、仕事を上げたり介助のし過ぎに注意している②入居者様の残存機能や自尊心を尊重した介助を心がけるようにしている③「ケアされるケア」を目指し、入居者様に生きがいや満足感を感じて頂けるように配慮している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①入居者様の情報をこまめに伝える努力をし、ご家族様ごと連携した介助が出来るように努めている②時には入居者様の代弁者としてご家族様に意向をお伝えする事もある③ご家族様と連携し入居者様にお伝えして良い事や悪い事を判断している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①馴染みの場所へ出掛けるまでには至っていないが、友人や親戚、家族様の面会時には落ち着いてお話ができるよう居室へご案内しつるいで頂いている②年賀状を書いて頂いたり、自宅への電話の取り次ぎや趣味であった将棋の相手などを実施している	利用者の地域との関係継続に向けた支援に努めてはいるが、馴染みの場所に出かけるまでには至っていない。	利用者のこれまでの人間関係や思いの深い場所等を把握し、利用者の希望があれば、その希望に沿った支援が出来るよう取り組んで頂きたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①個々の入居者様の性格やADLなどを見極め席の配置を決めている②隣席同士が話相手になったり助けあったりして頂くように援助している③スタッフは入居者様同士の間を取持つ役目として行動している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①退所されたのは2名様だけであるが、内1名様は自宅にてご家族様が介護されており、退所後に当施設を訪問された事もある。②併設されている居宅介護支援事務所のケアマネを通して退所後の支援が行われており、必要に応じて対応出来る体制となっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①日常生活や日々の会話などから入居者様の意向を確認している②本人様から確認出来ない場合は、ご家族様を通して情報を得たり、スタッフが様々な提案をして反応を確認しながら入居者様の希望に合う事を探している	利用者一人一人の思い・意向を把握するために、日頃より本人や家族から話を聞くように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①アセスメントシートの内容だけでは生活歴を全て把握する事は難しく、家族様もあまり多くは語ろうとされない傾向にある(介護に疲れ嫌な思い出が多いため)②散歩に出た時や入浴時などスタッフと二人になった時は昔の生活ぶりを話して下さる事が多いので、その機会を大切にする		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①大半の方は入居後1年近くが経過しており、概ねの生活パターンやADL等について把握している②生活状況については毎日介護記録に記入しスタッフが確認するようにしている③体調の変化等については業務日誌に記入し、朝夕の申し送り時(夜勤者⇄日勤者)に伝達を実施している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①居室担当制の導入により、その担当者がより深く入居者様を理解するよう努め、得た情報は他のスタッフにも伝えあうようにしている②3ヶ月毎の短期目標更新時には、より多くのスタッフの意見を聞きケアプランに反映させ、新しいプランは必ず閲覧するようにしている③本人や家族様の意見を聞き出す事が難しく今後の課題である	介護計画は、利用者本人や家族の要望を基に、日常から状況の把握に努め、現状に即したものになるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①日常生活や排泄、水分、バイタル等の記録は介護日誌に記入。最低2時間毎には様子を記す事になっている。②体調の変化等の伝達事項は業務日誌に記入して申し送りを実施③「気づき・提案シート」の活用によりスタッフの意見を反映、共有している④各記録等は出勤時に確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①様々なニーズに対して柔軟に対応するため、グループ企業の他のサービス(デイサービス)などと連携して交流を図ったり、ニチイとしての総合力を活用して、サービスの多機能化に貢献していきたいと考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①昨年は地域との交流が少ないとの指摘があった。今年は地域との交流を深める事を大きなテーマとして取り組んでいきたい。特に町内会の活動に参加したり、来て頂いたりしたい②消防、非難訓練は実施しているが、今後も実践に役立つよう真剣に取り組みたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①本人様やご家族様の希望によりかかりつけ医を決めて頂いている②提携医は2週間に一度の往診をお願いしている③提携医制度を活用すべく、常に連絡を取り相談や情報提供を行っている④異常が見られたら速やかに提携医の所へ診察に行くよう心がけている	事業所の提携医によって、1回/2週間の往診を受けている。本人や家族の希望を優先してかかりつけ医を決定し、適切な医療が受けられる体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	①看護職は居ないが、相談事は提携医の看護師さんに休日も含め連絡を取れるようにしている②併設されている居宅介護支援事務所のケアマネさんが元看護師なので、簡単な相談は聞いて頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①入院時には介護サマリーで情報提供を行っている②入院された場合は管理者などが病院を訪れ、ご家族様の要望や病院関係者への情報提供などの協力を実施している③入院中は定期的に面会を行うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①グループホームとしてお世話出来る限界や、医療的支援への転換時期などを見極めた上で、ご家族様に相談、説明を行い、納得の上で入院や退所の判断をして頂いている。②本人様のみならず、他の入居者様への影響も考慮して判断している	利用者や家族とよく話し合っ理解を得ており、グループホームとして出来る限りの対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	①今後、救命救急の講習会を開催しスタッフ全員が受講出来るようにしたいと考えている②緊急時における連絡体制、連絡先を整備しスタッフに周知している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①消防、非難訓練を年2回実施しているが、その他勉強会などで取上げていきたい②防災セット、非難用グッズ、非常食を保管している③今後、地域の協力を要請し実現していきたいと考えている	防災訓練の実施、防災セットや非常食を準備している。	災害発生時は、地域の協力体制が重要になることから、運営推進会議などで理解を得ていくことが必要である。今後の課題であり、継続的な取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①入居者様の選択や自己決定を尊重した対応を行うように心がけている②認知症の進行により、自己表現や生活動作が出来ない方に対しても、自尊心を傷つけない配慮を行っている③親しさの中にも年長者に対する敬いの気持ちを持った言葉遣いをするよう配慮している	管理者・職員共に利用者に対する姿勢は適切であり、誇りやプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①自己表現が可能な方の希望は可能な限り叶えられるよう配慮している②自己表現が難しい方には、開いた質問(何か食べたい物がありますか?)ではなく閉じた質問(YES or NO・A or B)にして自己決定がし易いように配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①1日を通した生活のリズムを守りながら、起きる時間や寝る時間、昼間の過ごし方などは自由に選択して頂くようにしている②スタッフの業務の都合でペースを作ってしまう事も時としてあるので、反省しつつ「ゆっくり・一緒に・楽しむ」を実現させたいと考えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①毎朝のヒゲ剃りや整髪、洗顔等はやれる方は自分でやって頂き、やれない方はお手伝いしている②理美容は2カ月に一度外部の美容師に来てもらっている③時々口紅を差す方がみえるが、そんな時はよく似合っていますよと声掛けをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①1時間という食事準備時間の中で、入居者様と一緒に作るころまでとはいかないが、米研ぎや食後の食器拭きなどは必ずやって頂いている②おやつや食後の飲み物などのコップ類は順番に洗ったり拭いたりして頂き、自分で片付けるという気持ちを大切にしている	利用者の出来ることに合わせ、片づけ等を一緒にしている。食事中は利用者同士が世話をやきあう姿もみられ、楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①日々の食事や水分量は介護記録に記して確認している②月初に体重測定を行い変化を確認、カロリーを控える材料の使用等を検討している③その方の体型や習慣等を判断しながら食事は調整している④食事の時に、無理して全部食べなくてもよい旨をお伝えしている(昔の方は残す事に罪悪感を持ってみえる)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後、声掛けを行い全ての方が歯磨きを実施②必要な方は説明や介助を実施③夜間、義歯の薬品洗浄や預かってお湯に浸けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	①自立されている方については、それを尊重し介助には入らず、見守りと後確認を実施②介助の必要な方は、把握しているパターンに基づき声掛けをしてトイレ誘導を実施③現在のところ、排泄の失敗はさほど多くなく、失敗される時は体調不良時が多いように感じる	利用者の状況に合わせ、排泄パターンを把握し、見守り・声掛け誘導など適切な対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①排便の無い日数は毎日確認し、朝礼時に申し送りを実施している②野菜など食物繊維を主とした食事や、水分摂取量を確認しながら対応している③1週間以上便秘が続く場合は医師に相談している④現状は便秘がひどい方は居ない		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	①基本的には1日おきに入浴して頂いているが、毎日希望される方にはそのようにしている②入浴時間はスタッフの勤務時間の関係で午後2時半～5時頃になっている③汚染等で必要な時は時間に関係なくシャワー浴などを実施④お湯は一人毎に入れ替え気持良く入って頂けるよう配慮している	事業所として一応の決まりはあるが、可能な限り利用者の希望を把握して応えるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①1日の大きな生活のリズムや昼夜逆転に配慮しながら、状況に応じた対応を実施(昼食後の昼寝や運動後や体調不良時の休憩等)②夕方から夕食後に向けて、少しずつテンションを下げるようにし、夕方に帰宅願望の出る方については、何回も説明し納得して落ち着いて頂くようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①誤薬のないよう、セット時と服薬時にはダブルチェックを実施②服薬における体調変化の疑いのある場合は医師に報告し、中止等の措置を実施③個々の服薬内容はファイルにまとめスタッフが確認出来るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①毎月の施設全体行事等はリーダー会において計画決定している②ボランティアや地域の方との交流を今後増やしていく予定③個々の入居者様の役割探しに力を入れ、様々な事に挑戦して頂いている④歌を唄う事や将棋、風船バレー等の運動、活花、散歩や畑仕事などを楽しんで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	①個々の要望に沿ってとまではいかないが、毎週水曜日を外出の日と定め、交代で買い物や喫茶店、公園などに出掛けている②暖かいシーズンにはよく散歩に出て頂いている③本来は自宅に日帰り帰宅でも出来ると良いが、家族様の都合もあり実現出来ていない	毎週水曜日を外出の日と決め、買い物や喫茶店などへ出かけている。利用者個々の対応には至っていないが、事業所として出来る範囲で支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①お小遣い金として1万円を預かっており、外出時の買い物等で好きな物を購入して頂いているが、支払い等はスタッフが代理で行う事が多い②食事を提供するとお金の支払いの事を心配される方がみえるので、その気持ちに配慮して既に頂いていると説明し納得してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①自宅に電話してほしいと言われる方は1名のみであるが、家族様の意向により電話したが留守であるとの対応にしている②昨年暮れに自宅に年賀状を出すように用意し、コメントを一言づつ書いて頂いた。書けない方はスタッフが代筆した		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①共用部においては、あまり幼稚園的な飾り付けをしないで、大人の雰囲気を出すように配慮している②入居者様に活けて頂いた花を飾り、季節感を感じられるようにしている③行事の写真パネルにして見て楽しんで頂くようにしている④雑誌を置き、自由に居室でも読んで頂いている	共有空間である居間や浴室・トイレは清潔が保たれており、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①フロア内で自由に席を移動して頂き、その時々で気の合う人同士で話しをされている。又、そうなるよう声掛けを行っている②暖かい日にはバルコニーに出ておやつを食べたり、話しをしたりされる③女性の方は積極的であるが、男性の方は難聴もあるが会話が乏しい傾向にあり今後の課題である		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①居室はどちらかと言うと休む(寝る)ための場所となっている②家具類は全て持ち込みとなっているが、馴染みの家具は少ないように感じる③居室担当を決め、衣類の整頓などをお手伝いさせて頂いている④布団をこまめに干して気持ちよく休んで頂けるようにしている	居室は清潔が保たれており、居心地よく過ごせるよう、馴染みの家具などがもちこまれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①建物内はバリアフリーとなっており、手摺も随所に配置されている②各居室に花を飾った表札を取付け自室を確認出来るようにしている③トイレの扉にはその旨表示がされており、場所を認識されている。自分の使用するトイレを決めておられる方も居る		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500061		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター坂本(2階 モクレン ユニット)		
所在地	岐阜県中津川市茄子川字坂本1499-33		
自己評価作成日	平成24年 2月20日	評価結果市町村受理日	平成24年 7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成24年 3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①この施設が入居者様の生活の場である事をふまえ、お客様ではなく生活者として自分でやれる事は自分でやり、手助けを必要とする事は一緒にやるという姿勢でお世話をさせて頂いている。入居者様には食器洗いや掃除、洗濯物たみなどの家事仕事を自主的にやって頂いたり、畑の草取りや収穫なども楽しんでやって頂いている。②明るく笑い声が絶えない事をモットーとして、日々の会話から様々な行事に至るまでスタッフが工夫しながら取り組みを行うようにしている。ちょっとしたやりとりからも「笑い過ぎて腹が痛い」という声が聞かれたり、「ほほえみ合唱団」と称して皆さんと一緒に大きな声で歌を唄ったり、明るい雰囲気大切にしている。③「気づき・提案シート」を活用し、スタッフ自らが提案や参加して業務の改善や情報の公開、共有化に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①認知症をよく理解し、入居者様に安心感を与えられるようなサービスを提供する」を管理者の理念としている②管理者が、毎月の業務ミーティング時に理念に基づき方針や目標、注意点などを伝え、理念の共有と実践に活かすようにしている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①日常的な交流にまでは至っていないが、ボランティアや地元小学生の訪問などが実現しつつある。これらを機に地域とのつながりを今年1年の重点取組課題として考えていきたい②入居者様の外出先として地元の商店や喫茶店、食堂や公園などを利用させて頂いている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①開所してまだ日が浅く、地域貢献するにまでは至っていないが、地元の小学生の訪問時や見学者や家族様に対して、この施設での取り組み方や方針の説明などを実施している ②今後は地域とのつながりを深め、機会を見つけて貢献出来る事を実施していきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①2カ月に一度開催し、ご家族様の参加し易い日を選んで開催日を決めているが、参加が少ないのが現状である ②入居者様の代表にも参加して頂いている③ニチイ通信を利用し実践報告を行っている。開催日に行事なども計画し参加して頂けるようにしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	①管理者が自治体を訪問し、情報交換や指導を仰ぐように努めている ②運営推進委員会にも市から参加して頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①身体拘束に対する社内マニュアルを利用して定期的に勉強会を実施し、今後も継続予定②物理的な拘束だけでなく、言葉による拘束(スピーチロック)や薬による拘束(ドラッグロック・薬漬け)にも注意を払うようにしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	①社内の虐待防止マニュアルを利用し定期的に勉強会を実施し、今後も継続予定②会社のスローガンである「しない、させない、見逃さない」を遵守し、虐待のサインを早期にキャッチ出来るように心がけている。特に言葉遣いに対して配慮をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①基本的な事項は理解されているが、詳細については今後定期的な勉強会に取り入れていく予定②当日のフロアリーダー制を導入し、毎日スタッフが集まり、リーダーを中心に入居者様の自立に向けた情報交換や介助方針を決めて実践するようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	①契約や解約時には、管理者が重要事項説明書や契約書の内容を十分に説明し理解を頂いている②特に、疑問や不信感などを持たれる事がないよう親切、丁寧をモットーとして説明を実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	①現在は運営推進会議時や面会時にご家族様の意見を聞かせて頂いているが、今後はアンケートや(退所者含む)や意見箱の設置を検討予定 ②退所された家族様が他の入居希望者様に「あそこは親切で良かった」と評価された事を教えて頂いた		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	①この施設の運営にスタッフ自身が参加する事を目標としている②新たに「リーダー会議」「居室担当制」「当日のフロアリーダー制」を導入し、月毎の目標や行事など基本的な事を決めたり、個々の入居者様に対する取組に参加出来る仕組みとした③「気づき・提案シート」を使用してスタッフの意見を聞き、速やかにその提案に対する対策を実施するようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	①毎月の職場訪問や会議への参加を心がけている。②勤怠を管理指導する中、時間外労働の把握をし法令遵守のみではなく、職員の健康面にも気をつけながら職場環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	①新入社員は、支店に於いて新人研修が行われ、他職員についても、テクニカル研修が逐次行われている。②月1回勉強会を行い、社外の研修についても随時情報提供し、希望者には参加を呼び掛けシフトを配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①中津川市グループホーム会に参加し、定期的な会合や研修会にスタッフも参加している②外部講習会の情報を通達し、参加を呼び掛けているが参加率はまだ低い③今後は他業者とのネットワーク作りを力を入れていきたいと考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	①可能な限り入居前に施設の見学をして頂き、納得して入居されるようにしている②入居初期の不安感や戸惑いを取除くべく、スタッフが常に寄り添い入居者様の話に耳を傾けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	①入居前に可能な限りアセスメントを実施し、それをケアプランに反映させるようにしている②家族様との連絡を密にし、お互いに話易い関係を築きつつ要望や困りごとを聞き出せるようにしている③ご家族様の要望を理解した上で情報提供やアドバイスをを行い、安心や信頼感を持って頂けるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	①初期のアセスメントで得た情報を基に、ご家族様の家庭の事情や入居者様の状況を理解しサービスへ反映させるようにしている ②特にグループホームとしてやるべき事、出来る事は何かを判断しながら対応している③医療的な面は提携医と相談しながら対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	①この施設における主役は入居者様であり、仕事を取り上げたり介助のし過ぎに注意している②入居者様の残存機能や自尊心を尊重した介助を心がけるようにしている③「ケアされるケア」を目指し、入居者様に生きがいや満足感を感じて頂けるように配慮している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	①入居者様の情報をこまめに伝える努力をし、ご家族様ごと連携した介助が出来るように努めている②時には入居者様の代弁者としてご家族様に意向をお伝えする事もある③ご家族様と連携し入居者様にお伝えして良い事や悪い事を判断している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	①馴染の場所へ出掛けるまでには至っていないが、友人や親戚、家族様の面会時には落ち着いてお話ができるよう居室へご案内しつるいで頂いている②年賀状を書いたり、自宅への電話の取り次ぎや趣味であった将棋の相手などを実施している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	①個々の入居者様の性格やADLなどを見極め席の配置を決めている②隣席同士が話相手になったり助けあったりして頂くように援助している③スタッフは入居者様同士の間を取持つ役目として行動している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	①退所されたのは2名様だけであるが、内1名様は自宅にてご家族様が介護されており、退所後に当施設を訪問された事もある。②併設されている居宅介護支援事務所のケアマネを通して退所後の支援が行われており、必要に応じて対応出来る体制となっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	①日常生活や日々の会話などから入居者様の意向を確認している②本人様から確認出来ない場合は、ご家族様を通して情報を得たり、スタッフが様々な提案をして反応を確認しながら入居者様の希望に合う事を探している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	①アセスメントシートの内容だけでは生活歴を全て把握する事は難しく、家族様もあまり多くは語ろうとされない傾向にある(介護に疲れ嫌な思い出が多いため)②散歩に出た時や入浴時などスタッフと二人になった時は昔の生活ぶりを話して下さる事が多いので、その機会を大切にする		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	①大半の方は入居後1年近くが経過しており、概ねの生活パターンやADL等について把握している②生活状況については毎日介護記録に記入しスタッフが確認するようにしている③体調の変化等については業務日誌に記入し、朝夕の申し送り時(夜勤者⇄日勤者)に伝達を実施している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	①居室担当制の導入により、その担当者がより深く入居者様を理解するよう努め、得た情報は他のスタッフにも伝えあうようにしている②3ヶ月毎の短期目標更新時には、より多くのスタッフの意見を聞きケアプランに反映させ、新しいプランは必ず閲覧するようにしている③本人や家族様の意見を聞き出す事が難しく今後の課題である		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	①日常生活や排泄、水分、バイタル等の記録は介護日誌に記入。最低2時間毎には様子を記す事になっている。②体調の変化等の伝達事項は業務日誌に記入して申し送りを実施③「気づき・提案シート」の活用によりスタッフの意見を反映、共有している④各記録等は出勤時に確認している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	①様々なニーズに対して柔軟に対応するため、グループ企業の他のサービス(デイサービス)などと連携して交流を図ったり、ニチイとしての総合力を活用して、サービスの多機能化に貢献していきたいと考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	①昨年は地域との交流が少ないとの指摘があった。今年は地域との交流を深める事を大きなテーマとして取り組んでいきたい。特に町内会の活動に参加したり、来て頂いたりしたい②消防、非難訓練は実施しているが、今後も実践に役立つよう真剣に取り組みたい		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	①本人様やご家族様の希望によりかかりつけ医を決めて頂いている②提携医は2週間に一度の往診をお願いしている③提携医制度を活用すべく、常に連絡を取り相談や情報提供を行っている④異常が見られたら速やかに提携医の所へ診察に行くよう心がけている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	①看護職は居ないが、相談事は提携医の看護師さんに休日も含め連絡を取れるようにしている②併設されている居宅介護支援事務所のケアマネさんが元看護師なので、簡単な相談は聞いて頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	①入院時には介護サマリーで情報提供を行っている②入院された場合は管理者などが病院を訪れ、ご家族様の要望や病院関係者への情報提供などの協力を実施している③入院中は定期的に面会を行うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	①グループホームとしてお世話出来る限界や、医療的支援への転換時期などを見極めた上で、ご家族様に相談、説明を行い、納得の上で入院や退所の判断をして頂いている。②本人様のみならず、他の入居者様への影響も考慮して判断している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	①今後、救命救急の講習会を開催しスタッフ全員が受講出来るようにしたいと考えている②緊急時における連絡体制、連絡先を整備しスタッフに周知している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	①消防、非難訓練を年2回実施しているが、その他勉強会などで取上げていきたい②防災セット、非難用グッズ、非常食を保管している③今後、地域の協力を要請し実現していきたいと考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	①入居者様の選択や自己決定を尊重した対応を行うように心がけている②認知症の進行により、自己表現や生活動作が出来ない方に対しても、自尊心を傷つけない配慮を行っている③親しさの中にも年長者に対する敬いの気持ちを持った言葉遣いをするよう配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	①自己表現が可能な方の希望は可能な限り叶えられるよう配慮している②自己表現が難しい方には、開いた質問(何か食べたい物がありますか?)ではなく閉じた質問(YES or NO・A or B)にして自己決定がし易いように配慮している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	①1日を通した生活のリズムを守りながら、起きる時間や寝る時間、昼間の過ごし方などは自由に選択して頂くようにしている②スタッフの業務の都合でペースを作ってしまう事も時としてあるので、反省しつつ「ゆっくり・一緒に・楽しむ」を実現させたいと考えている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	①毎朝のヒゲ剃りや整髪、洗顔等はやれる方は自分でやって頂き、やれない方はお手伝いしている②理美容は2カ月に一度外部の美容師に来てもらっている③時々口紅を差す方がみえるが、そんな時はよく似合っていますよと声掛けをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	①1時間という食事準備時間の中で、入居者様と一緒に作るころまではいかないが、米研ぎや食後の食器拭きなどは必ずやって頂いている②おやつや食後の飲み物などのコップ類は順番に洗ったり拭いたりして頂き、自分で片付けるという気持ちを大切にしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①日々の食事や水分量は介護記録に記して確認している②月初に体重測定を行い変化を確認、カロリーを控える材料の使用等を検討している③その方の体型や習慣等を判断しながら食事は調整している④食事の時に、無理して全部食べなくてもよい旨をお伝えしている(昔の方は残す事に罪悪感を持ってみえる)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	①毎食後、声掛けを行い全ての方が歯磨きを実施②必要な方は説明や介助を実施③夜間、義歯の薬品洗浄や預かってお湯に浸けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	①自立されている方については、それを尊重し介助には入らず、見守りと後確認を実施②介助の必要な方は、把握しているパターンに基づき声掛けをしてトイレ誘導を実施③現在のところ、排泄の失敗はさほど多くなく、失敗される時は体調不良時が多いように感じる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	①排便の無い日数は毎日確認し、朝礼時に申し送りを実施している②野菜など食物繊維を主とした食事や、水分摂取量を確認しながら対応している③1週間以上便秘が続く場合は医師に相談している④現状は便秘がひどい方は居ない		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	①基本的には1日おきに入浴して頂いているが、毎日希望される方にはそのようにしている②入浴時間はスタッフの勤務時間の関係で午後2時半～5時頃になっている③汚染等で必要な時は時間に関係なくシャワー浴などを実施④お湯は一人毎に入れ替え気持良く入って頂けるよう配慮している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	①1日の大きな生活のリズムや昼夜逆転に配慮しながら、状況に応じた対応を実施(昼食後の昼寝や運動後や体調不良時の休憩等)②夕方から夕食後に向けて、少しずつテンションを下げるようにし、夕方に帰宅願望の出る方については、何回も説明し納得して落ち着いて頂くようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	①誤薬のないよう、セット時と服薬時にはダブルチェックを実施②服薬における体調変化の疑いのある場合は医師に報告し、中止等の措置を実施③個々の服薬内容はファイルにまとめスタッフが確認出来るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	①毎月の施設全体行事等はリーダー会において計画決定している②ボランティアや地域の方との交流を今後増やしていく予定③個々の入居者様の役割探しに力を入れ、様々な事に挑戦して頂いている④歌を唄う事や将棋、風船バレー等の運動、活花、散歩や畑仕事などを楽しんで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	①個々の要望に沿ってとまではいかないが、毎週水曜日を外出の日と定め、交代で買い物や喫茶店、公園などに出掛けている②暖かいシーズンにはよく散歩に出て頂いている③本来は自宅に日帰り帰宅でも出来ると良いが、家族様の都合もあり実現出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	①お小遣い金として1万円を預かっており、外出時の買い物等で好きな物を購入して頂いているが、支払い等はスタッフが代理で行う事が多い②食事を提供するとお金の支払いの事を心配される方がみえるので、その気持ちに配慮して既に頂いていると説明し納得してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	①自宅に電話してほしいと言われる方は1名のみであるが、家族様の意向により電話したが留守であるとの対応にしている②昨年暮れに自宅に年賀状を出すように用意し、コメントを一言ずつ書いて頂いた。書けない方はスタッフが代筆した		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	①共用部においては、あまり幼稚園的な飾り付けをしないで、大人の雰囲気を出すように配慮している②入居者様に活けて頂いた花を飾り、季節感を感じられるようにしている③行事の写真をパネルにして見て楽しんで頂くようにしている④雑誌を置き、自由に居室でも読んで頂いている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	①フロア内で自由に席を移動して頂き、その時々で気の合う人同士で話しをされている。又、そうなるよう声掛けを行っている②暖かい日にはバルコニーに出ておやつを食べたり、話しをしたりされる③女性の方は積極的であるが、男性の方は難聴もあるが会話が乏しい傾向にあり今後の課題である		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	①居室はどちらかと言うと休む(寝る)ための場所となっている②家具類は全て持ち込みとなっているが、馴染の家具は少ないように感じる③居室担当を決め、衣類の整頓などをお手伝いさせて頂いている④布団をこまめに干して気持ち良く休んで頂けるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	①建物内はバリアフリーとなっており、手摺も随所に配置されている②各居室に花を飾った表札を取付け自室を確認出来るようにしている③トイレの扉にはその旨表示がされており、場所を認識されている。自分の使用するトイレを決めておられる方も居る		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 (2)	【事業所と地域のつきあい】 グループホームは地域密着型サービスであり、入居者が地域とのつながりを感じて暮らせることが出来るよう、継続した交流や取組が必要であるが、現状では十分な交流や取組が出来ているとはいえない状況である。	①当施設の「ご近所様」との交流(施設への出入、訪問、緊急時の援助等)が出来るようになる ②地域の皆さんに、ここに「ニチイの施設」があることを広く知ってもらう ③入居者様がなじみの場所へ行ける機会を増やす	①ご近所様への挨拶、声かけ運動の実施 ②ご近所の子供さんとの交流の実施 ③地域の活動や常会への参加、ニチイ通信の回覧 ④施設行事への参加要請の実施 ⑤週に一度の外出を継続し、入居者様の希望を取り入れる	12ヶ月
2	4 (3)	【運営推進会議を活かした取組】 運営推進会議は2カ月に一度開催しているが、家族様の参加率が低く、地域の代表者様の参加も十分とはいえない状況である。より多くの方の意見を聞き、サービスの向上につなげられるよう努力する必要がある。	①ご家族様の参加数を増やす ②地域の皆様に参加して頂く ③会議の内容の充実を図る	①常に家族様への連絡、報告を細かく行い、関心を持って頂くように努める ②会議への参加要請を電話等でも行う ③地域の班長、民生委員にも参加を要請する ④毎回、テーマを選定し具体的な内容を議論するようにする	6ヶ月
3	35 (13)	【災害対策】 火災や地震等の災害時、スタッフ全員が昼夜を問わず、入居者様を安全な場所へ避難させる技術や知識を身につけておく必要があるが、訓練も含め十分とはいえない状況である。	①全てのスタッフが災害時対応を理解し実践できるようにする ②定期的な訓練や学習会を実施し、定着させる ③関係諸官庁等との連携を深める	①火災時の避難計画書の作成と勉強会の実施 ②入居者様も参加し、具体的な避難訓練を実施する ③勉強会や訓練を継続定着させる ④消防署等の指導を仰ぎ、内容の充実を図る	12ヶ月
4	23 25 38 48	【入居者様の生活支援】 本来グループホームは入居者様の生活の場であり、主人公であるが、スタッフが自分の仕事としてとらえ、入居者様がやるべき事、やれる事まで手を出してしまっていたり、逆に、何もすることがないという状況が見られる。	①入居者様が、自分でやれる事がやれ、生活を取り戻すことが出来る ②全ての入居者様が安心して、楽しいと感じる毎日が過せるようになる	①スタッフが入居者様の立場に立って考えることを教育していく ②入居者様のやれること、やれないことを分析し、支援方針を明確にする ③当り前のことが当り前に出来る生活を構築できるよう生活全般を見直す	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。